

## 博覧会国際事務局（BIE）への手紙「草稿」

2025年4月から開催する日本国際博覧会（大阪・関西万博）まで、3年を切りました。私たち「夢洲の都市計画変更を考える市民懇談会」は、大阪湾の人工島・夢洲での万博開催について、万博協会や大阪府・大阪市に数多くの意見などを提出してきました。BIEに対しても、万博についての提言を手紙等で送ってきました。開催まで3年を切るなか、夢洲での万博開催をめぐる当面する課題について、あらためてお伝えします。

読売新聞4月13日は「万博機運まだまだ」と、大阪・関西万博の今を伝えています。昨年10月に実施した三菱総合研究所の全国調査によると、万博に関心があると答えた人は半年前とほぼ同じ30.9%。地元でも47.6%にとどまり、東京など首都圏では27.2%と3割にも届きません。コロナ禍の影響もあり、万博への関心の低さは、万博に向けた資金集めにも影を落としていると指摘しています。

万博への関心の低さだけでなく、多くの問題が会場予定地の夢洲など地元で浮上してきています。

第1に、コロナ禍で参加国の招致活動が遅れ、海外パビリオンなどの会場計画が確定していません。生煮えの会場計画であり、開催までの期間を考えると、日程的に厳しい状況となっています。会場計画が決まらず、適正な万博の環境影響評価（アセスメント）が実施できるのか疑問視されています。

第2に、夢洲は廃棄物などで埋め立てられた人工島であり、土壌汚染や地盤沈下、液化化などが懸念されています。隣接するIRカジノ予定地では、事業者が調査を行い、土地対策に巨額の公費が投入されることが大問題となっています。万博は半年間のイベントなので、土壌調査もほとんど実施されていません。これでは安心・安全な万博が開催できるか不安になります。

第3に、万博の会場建設費が上昇して、地元経済界や大阪市議会などで問題になっています。とりわけ会場をとりまく「大屋根」（リング）の建設費は350億円の巨費です。海にせり出した部分は軟弱なので、さらなるコスト上昇が懸念されています。地下鉄の延伸や高速道路の建設なども、当初計画よりコスト増となっています。

第4に、地元の環境団体が、夢洲は「大阪湾の宝」であり、ラムサール条約登録を呼びかけています。日本を代表する環境3団体も3月に夢洲の環境保全の要望書を提出しました。世界的な環境団体にも、この訴えが届くと思います。地球環境危機のもとで、生物多様性豊かな夢洲の自然環境は貴重です。万博会場計画の見直しが求められます。

第5に、2005年の愛知万博でも問題になりましたが、万博跡地の問題です。大阪府と大阪市は、万博会場に隣接したところにIRカジノを誘致して、万博跡地も「エンターテインメントの拠点」にしようとしています。SDGs達成を目標に掲げる万博の遺産が、カジノとエンタメでいいのでしょうか。BIEのシビアで賢明なる判断を求めたいです。

（2022年4月25日）